授業の考察③＜小学校＞　「トラブルにならないようなきき方を練習しよう」

考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、小学校６時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの２点を視点に考察します。

授業の考察の視点

Ⅰ　本時のねらいを達成できたか
Ⅱ　次時につながる内容であったか

なお、考察のために抽出した児童の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

Ⅰ　本時のねらいを達成できたかについての考察

〇は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

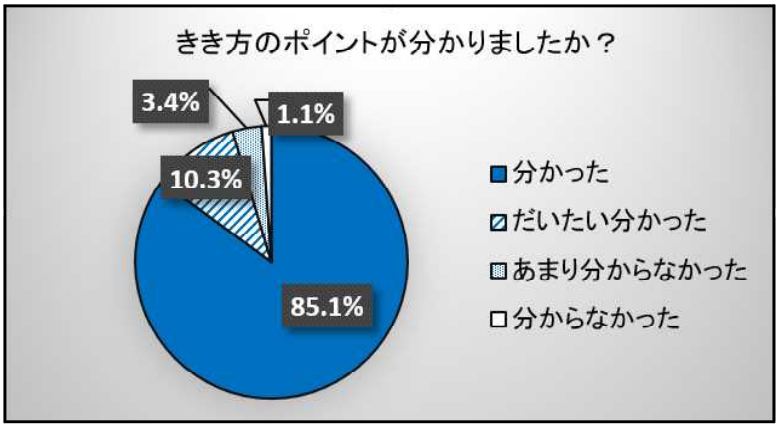
本時のねらいを達成できたかを、次の表１の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表１　本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「きき方のポイントが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「きき方のポイントに気を付けて練習できましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること

１　聴き方のポイントの理解について

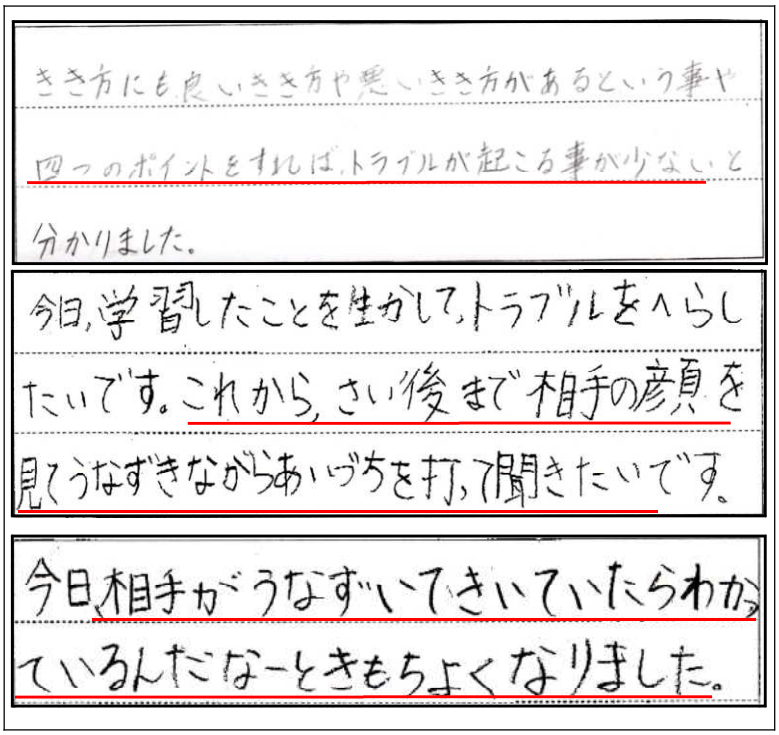
〇振り返りシートの「きき方のポイントが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した児童の合計は95.4%で、聴き方の良い例と悪い例のロールプレイを見て聴き方のポイントを考えるという活動を通して、聴き方のポイントについての理解を深めることができました（資料１）。



資料１　聴き方のポイントの理解についての
アンケート結果（振り返りシートより）

○児童が聴き方の良い例と悪い例のロールプレイを見ることで、児童が４つのポイントを意識して練習に臨むことができました。また、練習を通して、聴き方のポイントを使うと互いに良い気持ちになることを実感できたと考えます（資料２）。

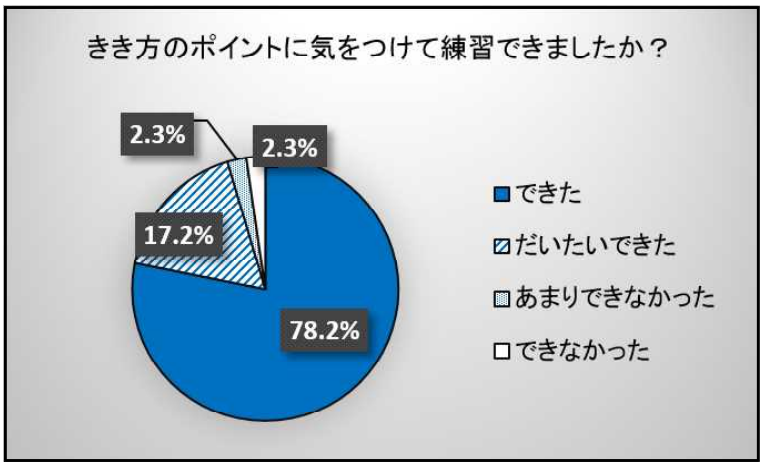
◇聴き方のポイントを考えるときにモデリングにおいて良い例と悪い例の明確な違いを示すことが重要であると考え、展開案の中の「モデリングシナリオ」や「指導上の留意点」を修正しました。



資料２　聴き方のポイントの理解についての児童の感想（振り返りシートより）

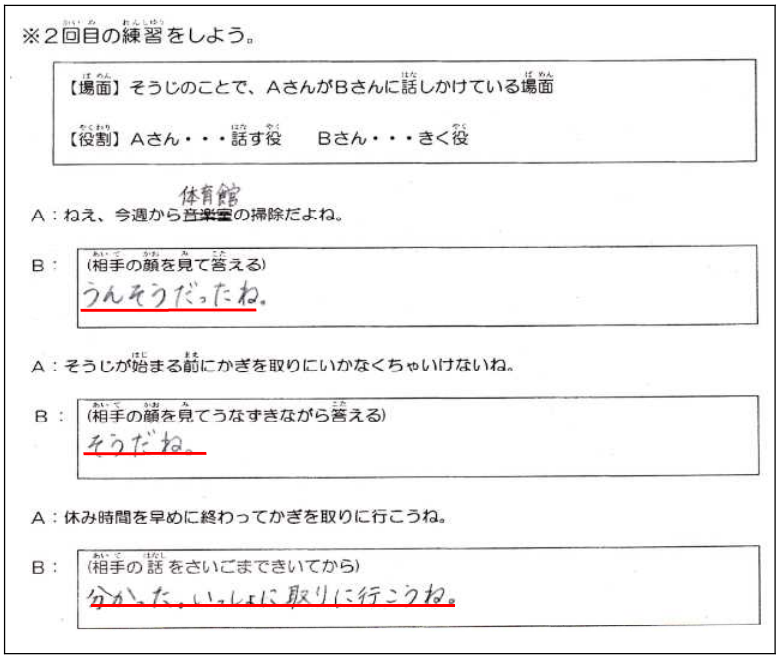
２　聴き方のポイントを意識した練習について

○振り返りシートの「きき方のポイントに気を付けて練習できましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した児童の合計は95.4%で、ほとんどの児童が聴き方のポイントを意識しながら意欲的に取り組むことができました（資料３）。



資料３　聴き方のポイントを意識した練習についてのアンケート結果（振り返りシートより）

○練習１では、モデリングで示した良い聴き方のシナリオを使って練習しました。続いて、練習２では、小学校でよくある掃除の場面を用いて、聴き方のポイントを入れた台詞を自分で考える活動を取り入れました。児童は、練習１でのシナリオを参考に、空欄に言葉を入れることができました（資料４）。


※2回目の練習をしよう。

【場面】そうじのことで、AさんがBさんに話しかけている場面

【役割】Aさん・・・話す役　Bさん・・・きく役

A：ねえ、今週から~~音楽室~~体育館の掃除だよね。

B：（相手の顔を見て答える）うんそうだったね。

A：そうじが始まる前にかぎを取りにいかなくちゃいけないね。

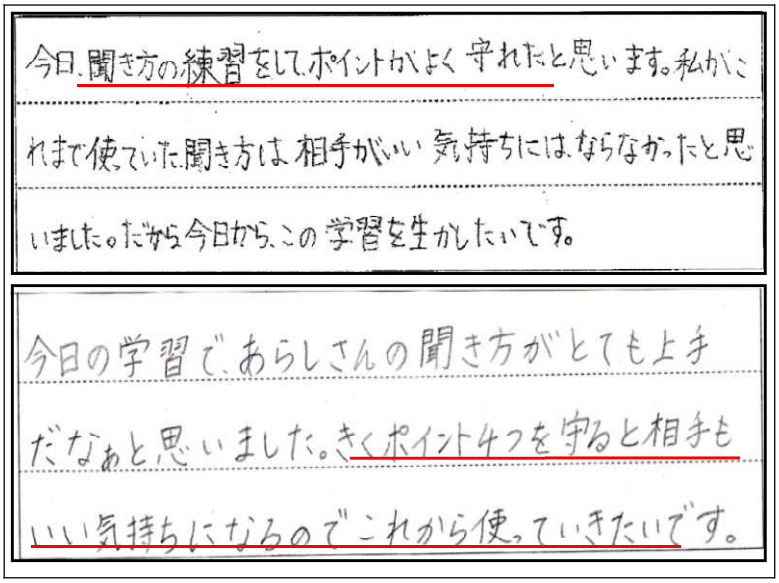
B：（相手の顔を見てうなずきながら答える）そうだね。

A：休み時間を早めに終わってかぎを取りに行こうね。

B：（相手の話をさいごまできいてから）分かった。いっしょに取りに行こうね。

資料４　聴き方のポイントを意識した練習についての児童の記述（ワークシートより）

○聴き方のポイントに沿った台詞を考える活動を通して、聴き方のポイントをより意識して練習することができたと考えます（資料５）。


今日、聞き方の練習をして、ポイントがよく守れたと思います。私がこれまで使っていた聞き方は、相手がいい気持ちにはならなかったと思いました。だから今日から、この学習を生かしたいです。

今日の学習で、あらしさんの聞き方がとても上手だなぁと思いました。きくポイント4つを守ると相手もいい気持ちになるのでこれから使っていきたいです。

資料５　聴き方のポイントを意識した練習についての児童の感想（振り返りシートより）

以上のことから、児童はトラブルにならないような聴き方についての理解を深めており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

Ⅱ　次時につながる内容であったかについての考察

〇は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

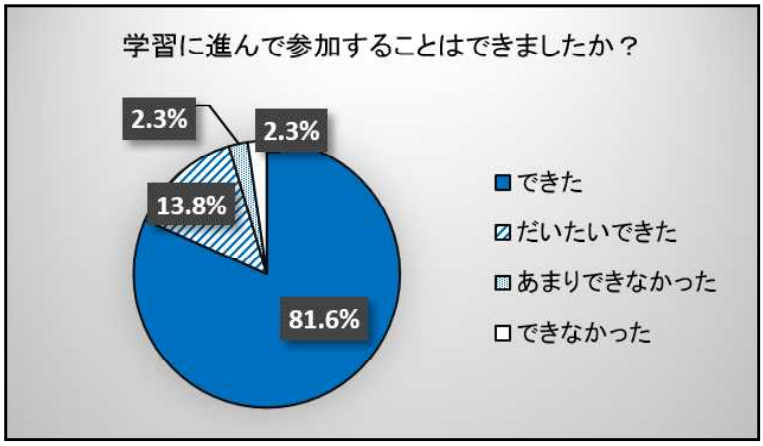
次時につながる内容であったかを、Ⅰの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表２の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表２　次時につながる内容であったかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思いますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

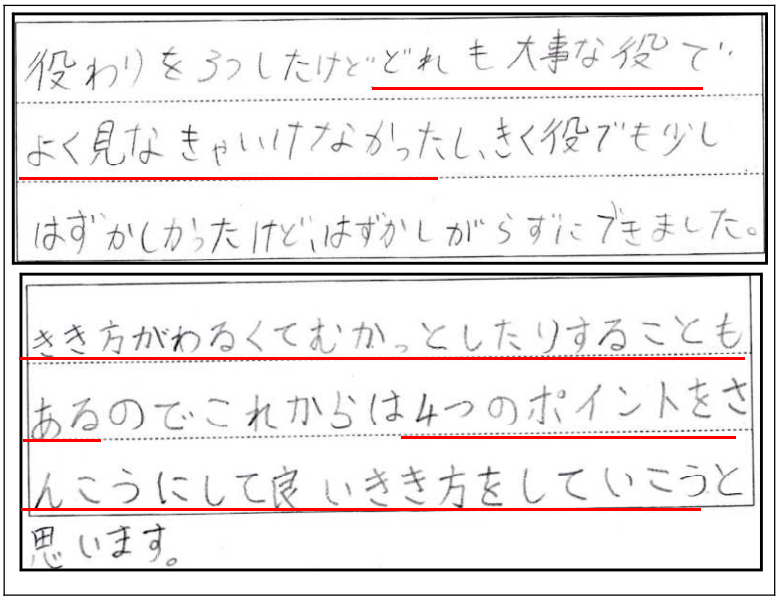
１　学習に進んで参加することができたかについて

〇振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した児童の合計は95.4%で、ほとんどの児童が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料６）。



資料６　学習への参加状況についての
アンケート結果（振り返りシートより）

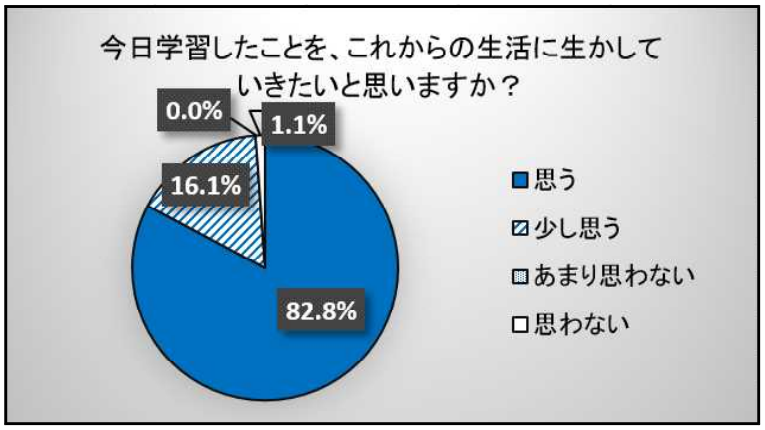
〇役割を交代して体験したことで、それぞれの立場でどのように感じるのかということを実感として捉えることができたことに加え、聴き方のポイントを使いたいという意欲につながったと考えます（資料７）。



資料７　学習への参加状況についての
児童の感想（振り返りシートより）

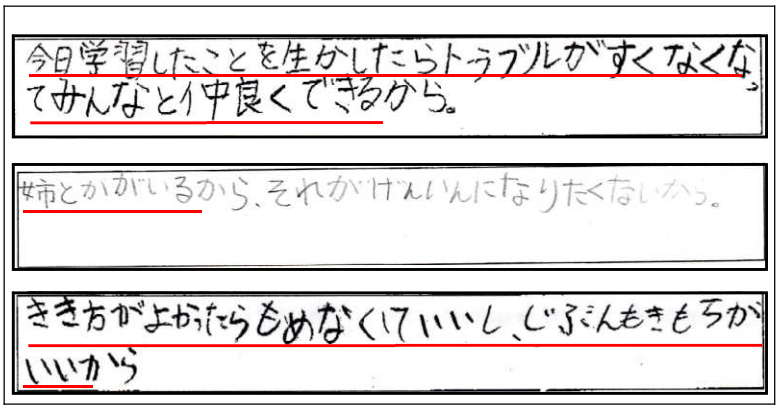
２　学習内容の今後の活用について

〇振り返りシートの「今日学習した内容をこれからの生活に生かしていきたいと思いますか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した児童の合計は98.9%で、ほとんどの児童が今日学習したことを生かしていきたいと思っていることが分かりました（資料８）。



資料８　学習内容の今後の活用についての
アンケート結果（振り返りシートより）

〇友達や兄弟など身近な人との関係を想起して、これから聴き方のポイントを使っていきたいと感じていることが分かりました。また、聴き方のポイントを使うと、相手だけではなく自分も気持ちよく関わることができたと考えます（資料９）。



資料９　学習内容の今後の活用についての
児童の感想（振り返りシートより）

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、児童が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。